

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校定時制課程 学校番号 902

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、商業教育をとおして「生きる力」を育成し、地域社会に貢献しうる有為な商業人の育成を目指し、特に次の目標の実現に努める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 普通教育及び商業に関する専門教科の基礎学力を着実に習得し、将来にわたって創意をはたらかせ、進歩向上を図る商業人を育成する。 2 心身ともにたくましく、強い意志と実践力のある商業人を育成する。 3 礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力・奉仕する商業人を育成する。
2 現状の分析	<p>○在籍生徒は全般的におとなしく真面目である。商業科目の資格取得にも前向きな姿勢で取り組み、毎年のべ100名以上が検定に合格している。</p> <p>○全校生徒の約70%が就労（アルバイト）をしながら家計を助け、学業との両立に努めている。</p> <p>○職員は一人一人の個性を尊重して、熱意をもって支援に努めている。</p> <p>▲全校生徒の約50%が小中学校時代に不登校を経験している。また、外国籍の生徒、学習障害の疑いのある生徒、学び直しを目標に再入学してきた生徒等、多様な生徒が在籍しており、学習面において基礎・基本的な学力が十分身に付いてない。</p> <p>▲集団生活の経験不足から人間関係を構築することが苦手で、コミュニケーション能力が十分身に付いていない生徒が多い。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な基礎・基本的な学力を身に付ける。 ・社会人として求められる規範意識や、良好な人間関係を構築する社会性を身に付ける。
4 今年度の具体的な重点目標	<p>社会の変化に対応できる基礎学力と学び方を身に付ける学習活動を推進する。（学習指導）</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
学習指導	①少人数授業やICTを活用した学習活動を推進し、学習の理解につながる指導を展開する。	①学校評価アンケートで、「学習の理解につながっている」と答える割合が70%を得られたか。	・肯定的な回答する生徒の割合は、68.9%であった。保護者対象のアンケートでも88.5%が肯定的であった。	B	○生徒の興味関心を高め、個々に合った指導を展開するため、多くの職員がICT機器を有効に活用した。 ▲資格取得は商業科の取り組みではあるが学校全体の教育活動として位置づけること、またキャリア教育と結び付け、卒業後の進路にもつながるような指導体制を構築したい。	B
	②全教科で授業アンケートを実施し、授業改善を推進する。	②授業アンケートで「授業の組み立てがよい」、「理解を確かめながら進めている」と答える割合が70%を得られたか。	・前期後期と2回実施したアンケートで「授業の組み立てがよい」、「理解を確かめながら進めている」の両項目において、肯定的な回答した割合は90%前後であった。	A		
	③個に応じた資格取得目標を掲げさせ、目標に向かって取り組ませる。	③学校評価アンケートで、保護者が「学校は資格試験等に対する指導をしている」と答える割合が70%を得られたか。	・今年度の検定結果はまだ出ていない。肯定的な回答する保護者の割合は、86.5%であった。生徒も66.7%が「前向きに取り組んでいる」と回答した。	B		

II 学校関係者評価 実施年月日：令和4年2月3日

・少人数教育の良さを活かして、保護者との連携をより密にして行くことが重要であると考えます。

・学校と保護者の接点がそれほど無いため、学校を信頼してお任せするしかないと思います。何か些細なことでも子どもが安心して相談できる雰囲気作りや職員体制の構築をお願いしたいと思います。

12 来年度に向けての改善方策案

・生徒の集中力を持続させ、基礎基本的な学力を定着させるために、整備されたICT機器を有効に活用する。そのために、職員研修会や授業研究会を定期的実施する。

・資格取得を学校全体の教育活動として位置づけるため、教科担任とHR担任が連携して推進する。また、始業前や放課後等の時間を有効に使い、検定合格に繋げる。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校定時制課程

学校番号

902

I 自己評価

1 学校教育目標	基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、商業教育をとおして「生きる力」を育成し、地域社会に貢献しうる有為な商業人の育成を目指し、特に次の目標の実現に努める。 1 普通教育及び商業に関する専門教科の基礎学力を着実に習得し、将来にわたって創意をはたらかせ、進歩向上を図る商業人を育成する。 2 心身ともにたくましく、強い意志と実践力のある商業人を育成する。 3 礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力・奉仕する商業人を育成する。					
2 現状の分析	○在籍生徒は全般的におとなしく真面目である。商業科目の資格取得にも前向きな姿勢で取り組み、毎年のべ100名以上が検定に合格している。 ○全校生徒の約70%が就労（アルバイト）をしながら家計を助け、学業との両立に努めている。 ○職員は一人一人の個性を尊重して、熱意をもって支援に努めている。 ▲全校生徒の約50%が小中学校時代に不登校を経験している。また、外国籍の生徒、学習障害の疑いのある生徒、学び直しを目標に再入学してきた生徒等、多様な生徒が在籍しており、学習面において基礎・基本的な学力が十分身に付いてない。 ▲集団生活の経験不足から人間関係を構築することが苦手で、コミュニケーション能力が十分身に付いていない生徒が多い。					
3 学校の抱える課題	・社会人として必要な基礎・基本的な学力を身に付ける。 ・社会人として求められる規範意識や、良好な人間関係を構築する社会性を身に付ける。					
4 今年度の具体的な重点目標	個々の生徒の特性を的確に把握し、その伸長と自立する力の育成に努める。（生徒指導）					
年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導	①積極的な情報発信を心がけ、保護者との連携を深め信頼関係を築く。	①保護者対象の学校評価アンケートで、「保護者の悩みに対応してくれる」と答える割合が、70%を得られたか。	・肯定的な評価の割合は84.6%。 担任が中心となって、保護者と連絡を密に取り合うことで、信頼関係を深めた。	B	○学校生活全般を通して、生徒と良好な関係を構築し、生徒理解に努めたことで、全職員が生徒の様子や情報を共有し、保護者に対しても、迅速に対応することができた。 ○連絡文書とHP掲載、配信メールサービスも用いて、生徒に配付したことを知らせることで、保護者への連絡を徹底する。また、配付文書のオンライン化に向けて準備を進める。	B
		②保護者対象の学校評価アンケートで、下記の項目は評価できる回答を得られたか。 ・「学校からの連絡文書は保護者に確実に届けられている」	・肯定的な評価の割合は80.8%。 生徒を通して届けることの困難さはある。	B		
		・「学校はHP等を用いて、保護者、地域へ様々な情報を速やかに伝えている」	・肯定的な評価の割合は82.7%。 行事が少ない中、給食だよりを中心に更新には努めた。	B		
		・「一斉配信メールサービスは有効に活用されている」	・肯定的な評価の割合は92.3%。 休校期間中の連絡、非常変災時の休校連絡、いじめアンケートなどで活用した。	A		

教育相談	②教育相談や様々な機会を通して生徒理解に努め、一人一人を認め、励ます生徒指導を推進する。	③生徒対象の学校評価アンケートで、「一人一人の良さや可能性を伸ばしている」の項目で、高い評価を得られたか。	・肯定的な評価の割合は71.1%。 アンケートや諸調査の結果も踏まえて、全職員で対応している。	C	○年4回の教育相談週間、年2回の三者懇談を通じて、生徒理解に努めたい。 ○生徒間トラブルやいじめ等での大きな問題は回避できている。	B
		④保護者対象の学校評価アンケートで、「教育相談を行い、個々の生徒に対して適切な指導を行っている」と答える割合が70%を得られたか。	・肯定的な評価の割合は82.7%。 今後も、保護者との情報共有や素早い対応を心掛けていきたい。	B		
特別活動	③充実感や楽しさを感じる特別活動（生徒会行事・部活動）や学校行事を推進する。	⑤生徒会行事の出席率が90%を達成できたか。	・3回の映画鑑賞会、蛍雪の会（ビンゴ大会等）を生徒会行事として実施し、ほぼ全員が出席した。	A	▲コロナ渦での休校期間や学校行事の自粛等、生徒とコミュニケーションをとることが十分でなかった。 ▲生徒が主体なる学校行事が十分に実施できなかったため、コロナ渦でも実施できる行事を検討する。	B
		⑥生徒対象の学校評価アンケートで、「学校行事が充実している」と答える割合が70%を得られたか。	・肯定的な評価の割合は51.1%。 映画鑑賞会を3回に増やし、蛍雪の会（ビンゴ大会等）を計画し、感染状況を確認しながらの実施となった。	C		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月3日

- ・少人数教育の良さを活かして、保護者との連携をより密にして行くことが重要であると考えます。
- ・学校と保護者の接点がそれほど無いため、学校を信頼してお任せするしかないと思います。何か些細なことでも子どもが安心して相談できる雰囲気作りや職員体制の構築をお願いしたいと思います。

12 来年度に向けての改善方策案

- ・保護者との連携をさらに深めることで、迅速かつ的確な支援を行う。また、本校のスクールカウンセラーや外部機関との連携を図ることの重要性を理解する。
- ・生徒会行事やLHRの中で、個々に応じて、集団の一員として活躍する場面を増やし、自己有用感をもたせることで、自主性や積極性を育成する。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校定時制課程

学校番号

902

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、商業教育をとおして「生きる力」を育成し、地域社会に貢献しうる有為な商業人の育成を目指し、特に次の目標の実現に努める。</p> <p>1 普通教育及び商業に関する専門教科の基礎学力を着実に習得し、将来にわたって創意をはたらかせ、進歩向上を図る商業人を育成する。</p> <p>2 心身ともにたくましく、強い意志と実践力のある商業人を育成する。</p> <p>3 礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力・奉仕する商業人を育成する。</p>
2 現状の分析	<p>○在籍生徒は全般的におとなしく真面目である。商業科目の資格取得にも前向きな姿勢で取り組み、毎年のべ100名以上が検定に合格している。</p> <p>○全校生徒の約70%が就労（アルバイト）をしながら家計を助け、学業との両立に努めている。</p> <p>○職員は一人一人の個性を尊重して、熱意をもって支援に努めている。</p> <p>▲全校生徒の約50%が小中学校時代に不登校を経験している。また、外国籍の生徒、学習障害の疑いのある生徒、学び直しを目標に再入学してきた生徒等、多様な生徒が在籍しており、学習面において基礎・基本的な学力が十分身に付いてない。</p> <p>▲集団生活の経験不足から人間関係を構築することが苦手で、コミュニケーション能力が十分身に付いていない生徒が多い。</p>
3 学校の抱える課題	<p>・社会人として必要な基礎・基本的な学力を身に付ける。</p> <p>・社会人として求められる規範意識や、良好な人間関係を構築する社会性を身に付ける。</p>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>個々の生徒の興味や適性に応じた、きめ細かな進路指導を推進する。（進路指導）</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
進路指導	①外部講師による進路ガイダンスや就職指導講習会を実施し、様々な仕事に対する認識・理解を深める。	①学校評価アンケートで、「生徒が進路情報の適切な提供を受け指導を受けた」と答える割合が70%を得られたか。	・予定通り、「進路ガイダンス」を実施することができた。 ・肯定的な回答をする生徒の割合は、73.3%であった。	B	○本人の希望と保護者の意見を聞きながら、現実を踏まえつつ、その適性に応じた進路先を探していくことができた。 ▲生徒自身が現実的に考え始めるのが遅く、就職・進学活動のスタートが遅くなる傾向がある。本人の意識、保護者の意識も含めて、早めに活動ができるような工夫が必要である。	B
	②各学年、時期に合わせた進路情報を様々な場面で提供する。	②学校評価アンケートで、「保護者が必要とする進路情報の提供する場が得られた」と答える割合が70%を超えたか。	・三者懇談会等で「進路のてびき」を配布し、内容の説明ができた。 ・肯定的な回答をする保護者の割合は、82.7%であった。	B		
	③早い段階から、一人一人の進路希望に応じた個別指導を実施する。	③学校評価アンケートで、「生徒の進路希望に沿ったアドバイスが得られた」と答える割合が70%を超えたか。	・「教育相談」「三者懇談会」等で得られた情報を元に指導を進めることができた。 ・肯定的な回答をする生徒の割合は、71.1%であった。	B		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月3日

<ul style="list-style-type: none"> ・少人数教育の良さを活かして、保護者との連携をより密にして行くことが重要であると考えます。 ・学校と保護者の接点がそれほど無いため、学校を信頼してお任せするしかないと思います。何か些細なことでも子どもが安心して相談できる雰囲気作りや職員体制の構築をお願いしたいと思います。

12 来年度に向けての改善方策案

<ul style="list-style-type: none"> ・1年次から卒業までを見通したキャリア教育を進めていくために、分掌、学年、教科、新課程等に合わせて、年間指導計画を改定していく。 ・保護者との連携をさらに強める方策を考え、推進する。 ・進路意識を高めるための「キャリアパスポート」については、効果的な運用を引き続き検討していく。
